ノ リ 業 界 の 現 況

―平成 17 年度研修会資料―

平成 17 年 7 月

全国海苔貝類漁業協同組合連合会

もくじ

はじめに ―― 1

Ⅰ ノリ業界の変遷 ―― 2

Ⅱ ノリ生産動向 ―― 4

Ⅲ ノリ消費動向 ―― 7

Ⅳ ノリ需給動向 ―― 12

Ⅴ 漁場環境保全 ―― 15

Ⅵ 資料 ―― 20

はじめに

平成 16 年度ノリ漁期は、生産枚数 95 億 7 千万枚、生産金額 939 億円、平均単価 9 円 81 銭という結果となった。前年と比較して、枚数が 112%、金額が 107%と、ともに前年を上回った。とはいえ漁期前半から中盤にかけては、前年をこれほど上回る内容ではなく、むしろ病害発生で秋芽生産が惨憺たる結果となったのは不作の前年に酷似するもので、9 月、10 月の度重なる台風上陸による施設被害、漁場の比重低下、地区によっては種網作りもままならぬ有様は前年を上回る不作感が漂った。

ここ数年、過去に経験がない早期もしくは長期化する色落ちや病勢の強さを指摘する生産者の声が多く聞かれる。その中で地域差、個人差が激しくなっている。100 億枚生産が安定していた時は、九州 40%、瀬戸内 35%、東日本 25%の生産比率だったが、平成 16 年度の場合、その比率は、それぞれ 48%、31%、21%と変化している。こうした変化の中で日本の生産地図は大きく変貌を遂げるのか、その過渡期なのか、現時点でははっきりしないが不安は先行する。

この国内の生産事情の中で、韓国は対日ノリ輸出量の増加を要求し、中国は対日ノリ輸出の門戸を開くよう積極的に働きかけた結果、日本はＩＱ枠のグローバル化を決定し、今年、韓国、中国両国から 4 億枚の輸入が決まった。加えて韓国は日本のノリＩＱ制度をＷＴＯにパネル提訴しており、その成り行きが心配されている。

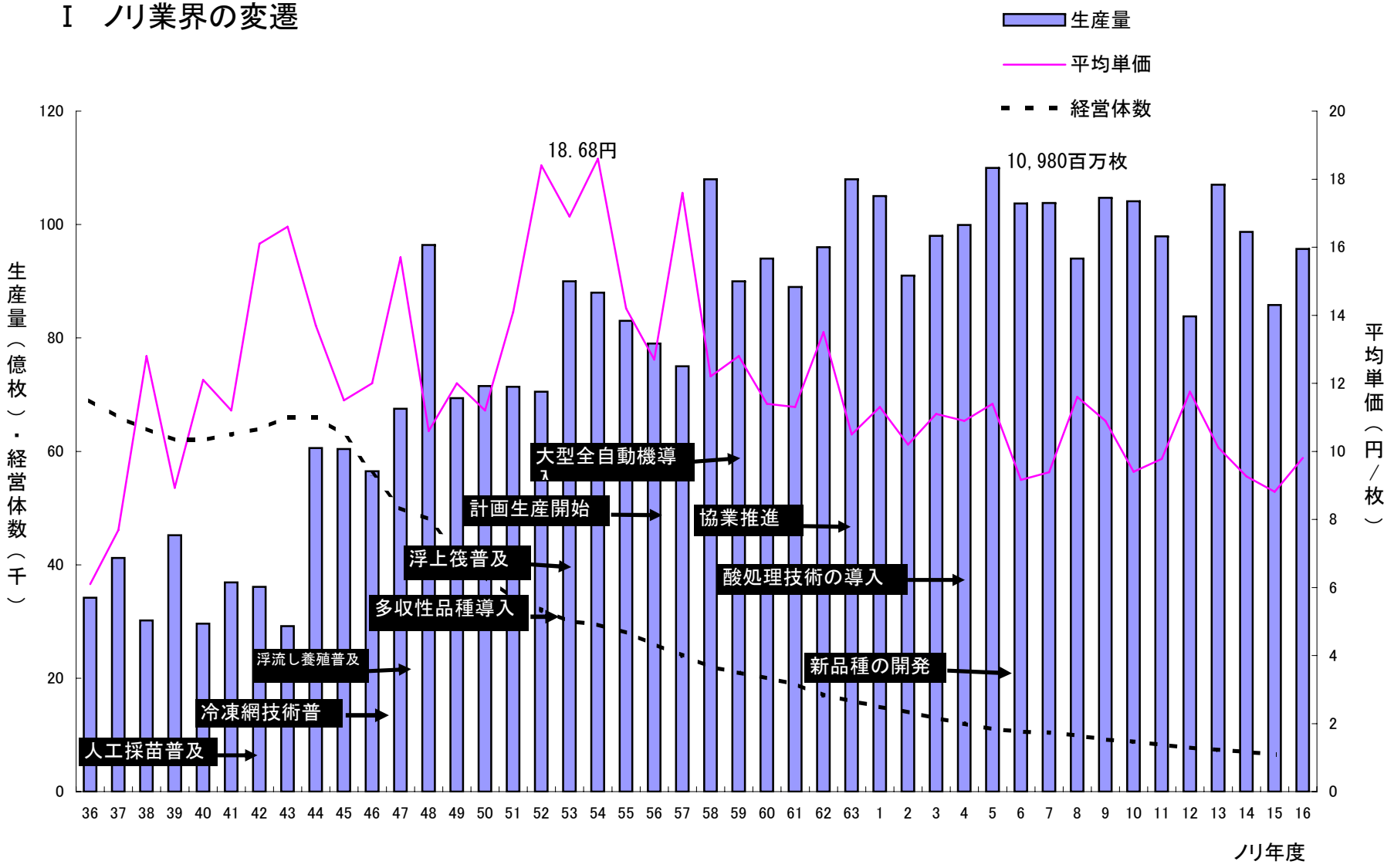
冒頭に今年のノリ生産状況を振り返ったが、漁期前半の状況は韓国、中国とも苦戦を強いられた。特に中国は最終的にも前年の半作という結果であり、本来であれば輸出するだけの余裕はなかったと推測される。日本の生産量と今年の輸入量を合算すると期せずして国内の推定消費量の約 100 億枚に該当し、ノリＩＱ枠グローバル化の初年度としては事なきを得た感じである。とはいえ日本、韓国、中国のノリ生産の豊凶は、これまでの生産推移からすると連動するかに見える。もし日本が 100 億枚を越えるような豊作年に恵まれた時、日本のノリ製品とバッティングし、広大な干潟漁場を有し、新漁場の開発の著しい中国ノリも大豊作となる。輸入が本格化すれば国内ノリ産業への影響は計り知れないものがある。

ノリＩＱ枠を堅持しなければならない。大量生産時代に入った平成の年代からノリ相場はノリ購入投下資金量に制御されている感がある。特にバブル経済の崩壊後はその傾向がより顕著になったかのようにみえる。海外への資金の流出をいかに水際で食い止めるか、今後の大きな課題である。加えて日本のノリ生産は外国産ノリとの差別化が重要な鍵を握る。消費者に安全安心で、おいしいノリを提供するとともに、コストの更なる削減を図るための技術、経営面での工夫が必要となってくる。原料原産地表示はあらゆるノリ製品に必要であることは言うまでもない。その表示が国内のノリを守る十分な手段となるよう自信と自覚をもったノリ生産が求められる。

この小冊子はこのようなノリ業界の現況を生産、流通、消費に関わるデータ（資料）によって紹介したもので、平成 17 年度の全海苔連研修会資料として作成した。各位の参考になれば幸いである。

全海苔連･漁政総務部

Ⅰ　ノリ業界の変遷



図―1　技術の変遷と生産量、平均単価、経営対数の推移

表－１　ノリ養殖主要指数の推移

	昭和50年	昭和60年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	過去の最高値 年	過去の最高値 値
経営体数	37,507	20,405	8,789	8,274	7,748	7,359	7,029	6,549	S 36	68,725
施設面積（千㎡）	156,133	125,056	103,354	98,684	96,011	93,236	84,769	－	S 49	187,020
※共販出荷量（百万枚）	6,727	9,075	10,236	9,679	8,296	10,686	9,846	8,540	H 13	10,686
※共販金額（百万円）	75,813	103,562	96,215	94,644	97,452	108,043	91,205	87,706	S 54	154,932
※平均単価（円／枚）	11.27	11.41	9.40	9.78	11.75	10.11	9.26	10.27	S 54	18.68
※1経営体当たり施設面積（千㎡）	4.16	6.13	11.76	11.92	12.39	12.67	12.06	－	H 13	12.67
※1㎡当たり共販量（枚）	43	73	99	98	86	115	116	－	H 14	116
※1経営体当たり共販量（千枚）	179	445	1,165	1,170	1,071	1,452	1,400	1,304	H 13	1,452
※1経営体当たり共販金額（千円）	2,021	5,075	10,947	11,439	12,578	14,682	12,976	13,392	H 13	14,682
漁家所得（千円）	3,462	5,462	10,188	9,499	13,473	12,749	10,973	11,085	H 12	13,474
漁業所得（千円）	1,912	2,606	6,439	5,747	8,013	8,888	7,654	6,918	H 13	8,888
漁業依存度（％）	55	48	63	61	59	70	70	62	S 53	74

資料：農林水産省「漁業養殖業生産統計年報」、「漁業経営調査報告」　※は全海苔漁連調査
注：1）1柵当たりの網規格は、昭和53年まで＝18.2m×1.2m、昭和54年以降＝18.2m×1.5m
　　2）昭和59年より「同年報」は、昭和49年までさかのぼって漁場面積を施設面積に変更。
　　3）平成15年の施設面積は平成17年7月5日現在未確定。

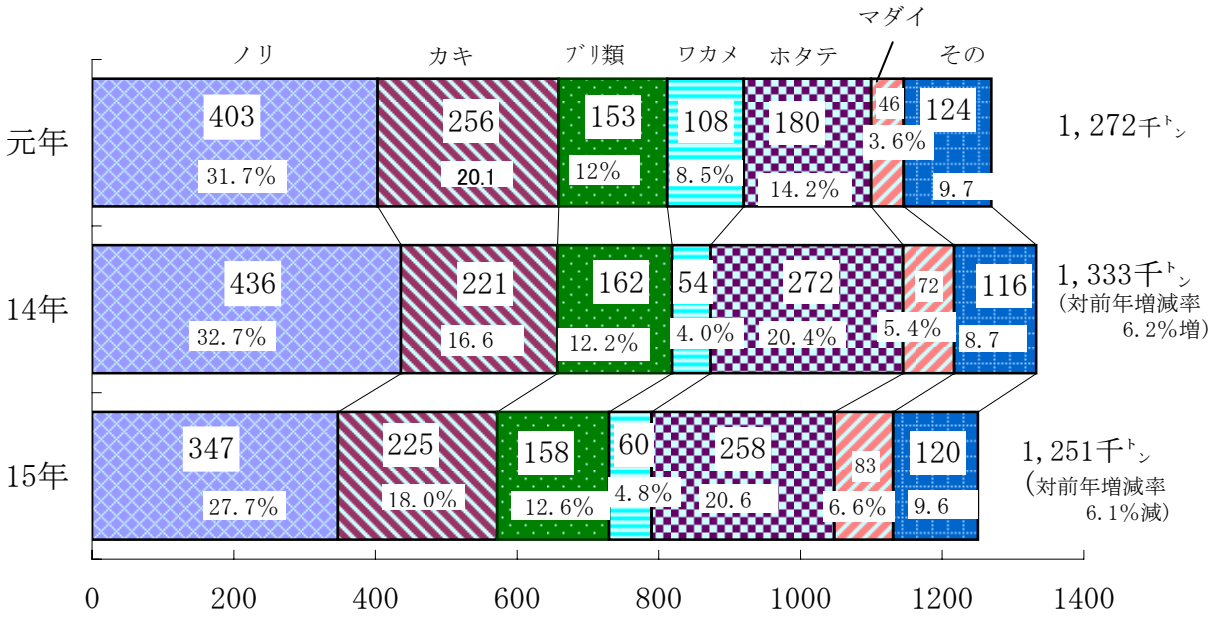
Ⅱ　ノリ生産動向

表－2 過去4カ年の県別共販出荷量、平均単価と全国生産量及び生産金額

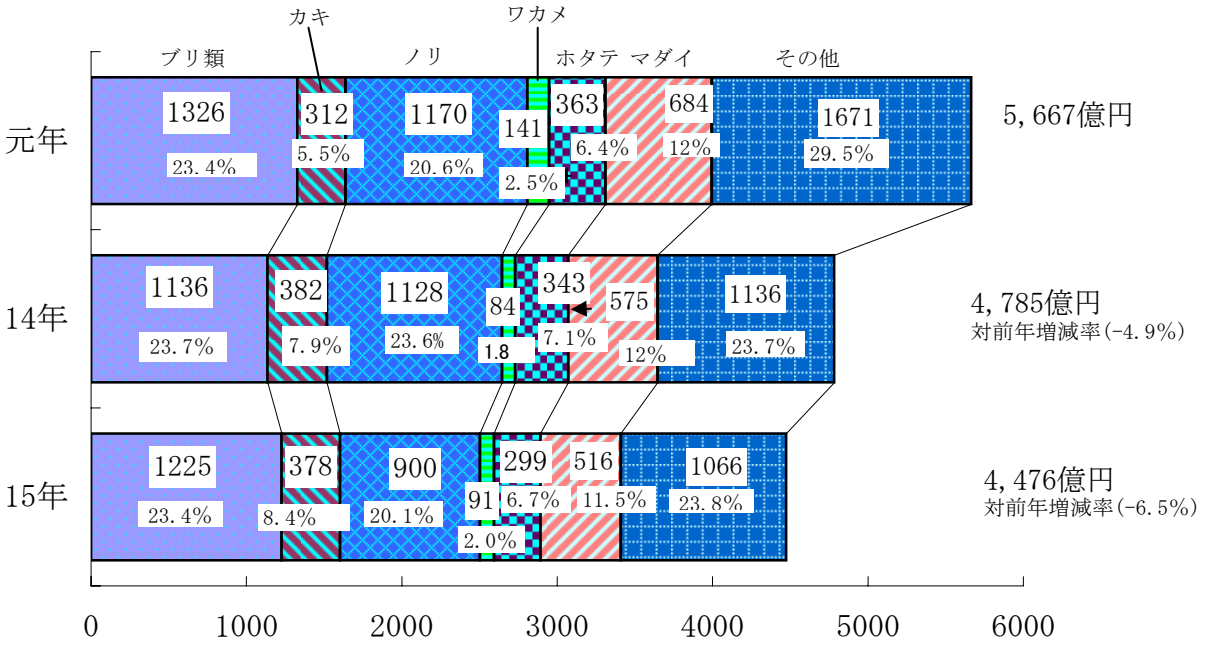
海苔年度 / 単位 / 県名	13年度		14年度		15年度		16年度	
	出荷量 百万枚	単価 円／枚	出荷量 百万枚	単価 円／枚	出荷量 百万枚	単価 円／枚	出荷量 百万枚	単価 円／枚
〔産地共販〕								
北海道	－	－	－	－	－	－	－	－
宮　城	670	9.07	797	9.48	705	8.81	652	8.96
千　葉	507	10.49	489	11.00	433	11.68	368	11.33
神奈川	21	9.51	18	10.37	18	10.64	17	10.15
愛　知	730	10.28	781	10.16	546	10.02	555	10.36
三　重	476	9.62	466	8.98	383	9.97	366	9.72
和歌山	1.4	7.03	1.0	6.59	0.3	6.08	0.0	0.00
大　阪	1.6	8.06	3.4	7.18	1.0	7.17	1.9	7.72
兵　庫	1,704	9.22	1,734	9.59	1,149	10.05	1,564	9.96
岡　山	355	9.50	320	7.86	288	7.79	275	9.14
広　島	101	7.39	87	5.23	91	7.05	77	8.17
山　口	183	9.86	144	7.67	102	10.12	81	8.70
徳　島	209	9.16	219	8.76	110	8.20	165	8.92
香　川	937	8.21	617	7.42	737	9.23	639	9.89
愛　媛	161	8.33	105	6.53	83	8.18	81	8.45
大　分	37	7.73	29	5.39	10	5.03	89	5.29
福　岡	1,556	12.16	1,201	9.87	1,130	11.16	1,456	10.31
佐　賀	1,804	11.77	1,426	10.25	1,645	11.80	1,927	9.90
長　崎	26	8.82	28	7.47	26	8.78	24	8.29
熊　本	1,037	9.19	1,208	8.10	963	9.97	1,132	9.22
鹿児島	9	10.32	17	8.68	12	10.67	14	10.05
〔消費地共販〕								
全海苔漁連	161	9.19	155	8.27	107	9.87	136	9.25
共販合計	10,686	10.11	9,846	9.26	8,540	10.27	9,542	9.81
生産量(百万枚)	10,740		9,879		8,580		9,570	
生産金額(億円)	1,086		915		881		939	

（全漁連、全海苔漁連調べ）

〔生産量〕



〔生産額〕



図－３ 海面養殖業主要魚種別生産量及び生産額の推移
資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計年報」
注：1)生産額の合計には、種苗養殖を含む。
2)生産量の海藻類は生換算、貝類は殻付重量である。

Ⅲ　ノリ消費動向

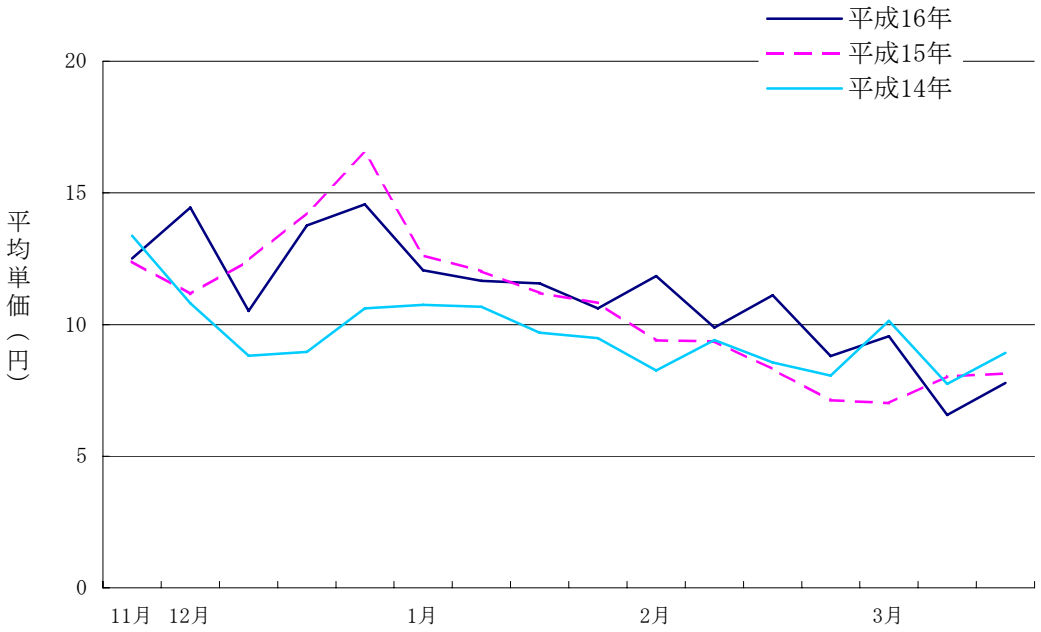
⑴　平成16年度の相場動向

単価の動きを週ごとにみると、下図の通りである。漁期序盤の度重なる台風の上陸や病害の発生で秋芽生産は前年同様不作となった。この様相を受けて相場の動きも前年と同じように強調に推移した。生産面で前年との違いは漁期終盤に現れている。有明海は3月以降も色のある製品が生産され,瀬戸内の後期生産県も前年に比べ色落ち被害が遅く発生し終了した。ただし最終的に生産量が前年を上回る予想がたった3月以降は、それまの強調相場を修正するように下落し、漁期共販を終えることとなった。

⑵　全般的な消費動向

歳暮、中元は低迷する法人需要を補うために個人消費に力を入れるが、現状を維持するのが精一杯である。ノリは百貨店にみる売り上げランキングでベスト10に入るものの最近ではノリ単品では危うくなるなど苦戦している。また家庭用にしても若い世代の消費拡大に結びつく新たな消費形態が望まれるなど高齢化社会に支えられている現状に消費は減退傾向にある。

一方、業務用消費はコンビニエンスストアのおにぎり商品が引き続き安定した需要を示しているが、ノリを巻かないものや帯状に巻くものが増えるなど、一時期の旺盛なノリ消費拡大の勢いは見られなくなっている。いずれにしろ新たな用途開発や消費形態の創造から消費拡大の道を探らねばならないのが現状である。



図－4 過去3カ年の平均単価の推移(週別「海苔速報」から)
注：11月は共販開始から28日までの累計平均値、3月は27日までの結果

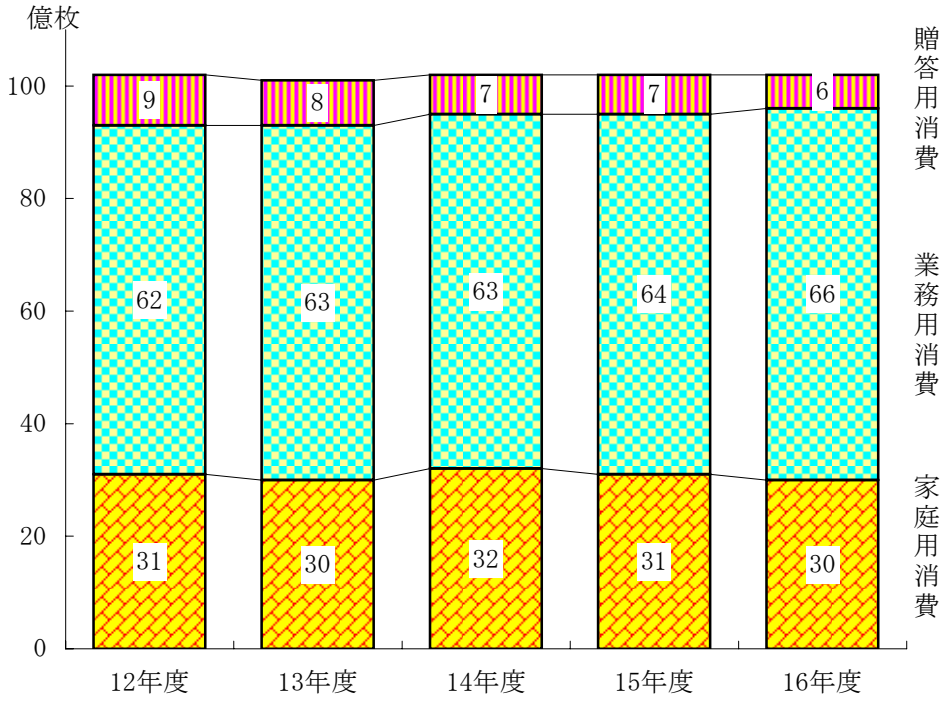
２．用途別推定消費量

表－3　ノリ推定消費量(率)の推移

〔単位：率は%、枚数は億枚〕

	平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度	
	率	枚数	率	枚数	率	枚数	率	枚数	率	枚数
贈答用消費	9	9	8	8	7	7	7	7	6	6
業務用消費	61	62	62	63	62	63	63	64	65	66
家庭用消費	30	31	30	30	31	32	30	31	29	30
合　計	100	102	100	101	100	102	100	102	100	102

注：年度区分は前年12月～11月



図－5　ノリ推定消費量の推移〔単位：億枚〕

３．家計消費支出

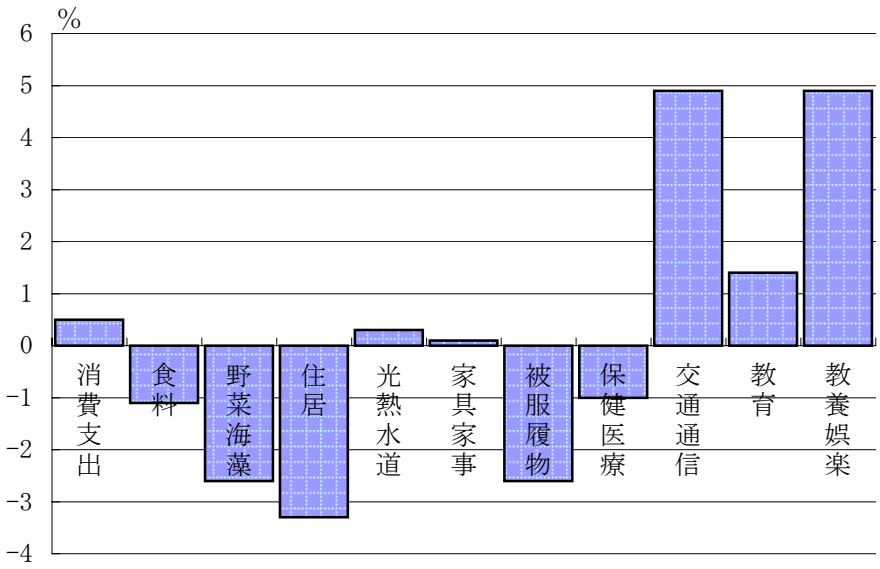


図６－１
平成16年における1世帯当たり消費支出の年平均1カ月間の対前年実質増減率(全国・全世帯)

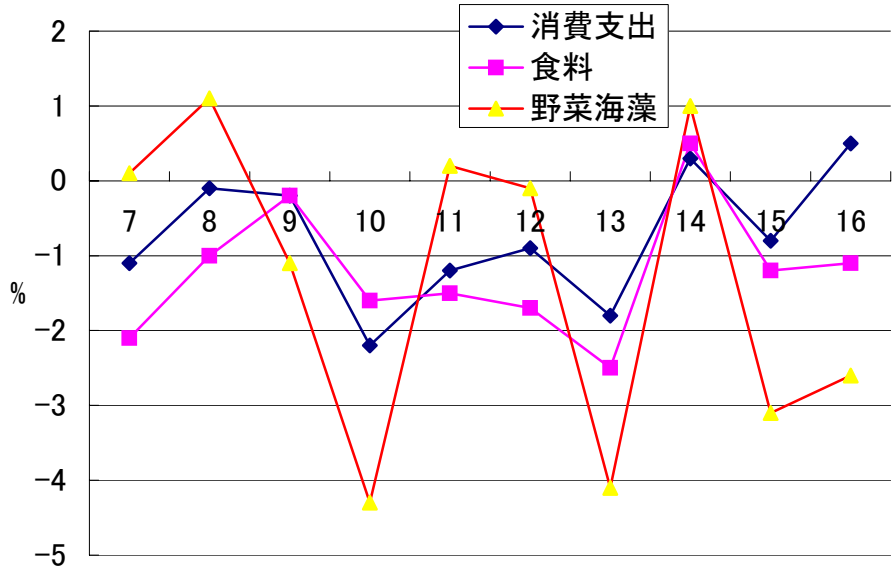


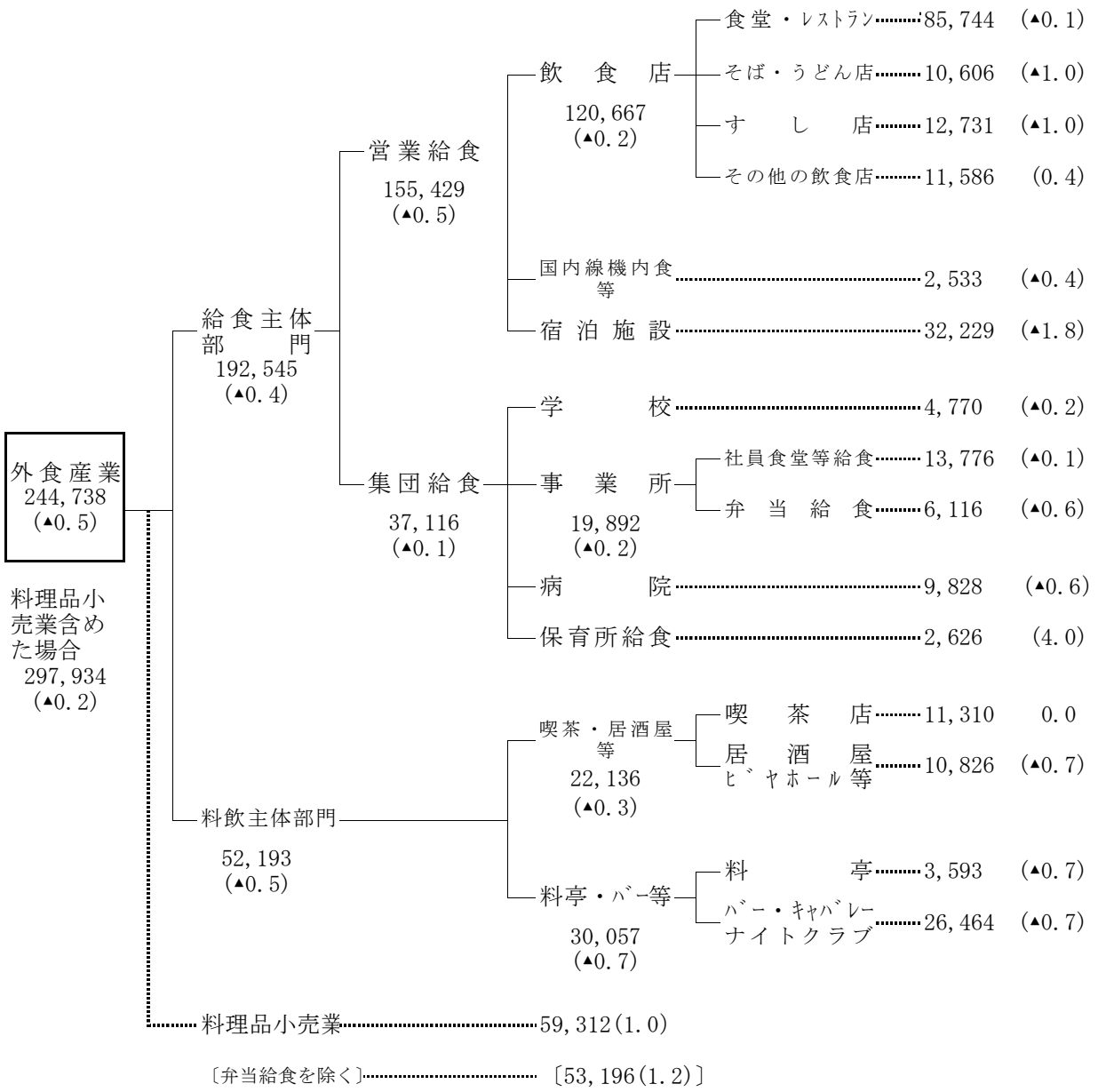
図６－２
ここ10年間における1世帯当たり平均1カ月間の支出の対前年実績実質増加率(全国全世帯)

－総務省統計局「家計調査報告書」より－

４．業務用ノリ消費

表－4　平成16年(2004年)外食産業市場規模推計値

単位：億円、( )内は対前年増減率：%



(注)資料は(財)外食産業総合調査研究ｾﾝﾀｰの推計による。

1)平成15年外食産業市場規模は平成17年4月現在の推計値で24兆5,864億円である。

2)売上高のうち、持ち帰り比率が過半の店は、「料理品小売業」に格付けされる。

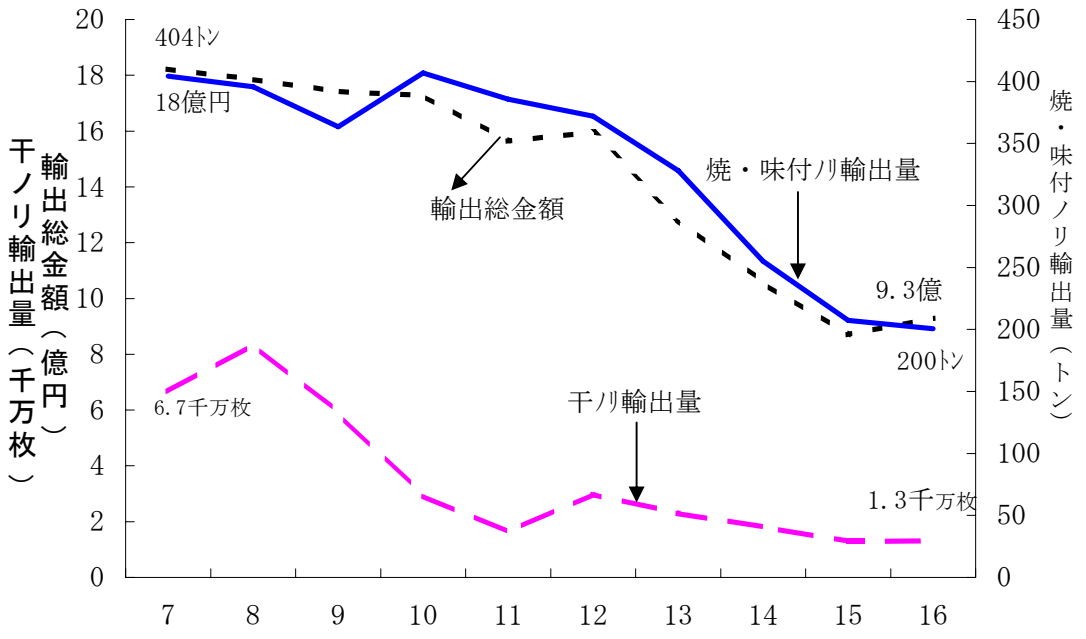
3)産業分類の関係から料理品小売業の中には、ｽｰﾊﾟｰ、百貨店等の売上高のうちﾃﾅﾝﾄとして入店している場合の売上高は含まれるが、総合ｽｰﾊﾟｰ、百貨店が直接販売している売上高は含まれない。またｺﾝﾋﾞﾆｴﾝｽｽﾄｱの三分の一程度は「料理品小売業」に含まれている。

4)外食産業の分類は、基本的には日本標準産業分類に準じている。一部、最近の業態の変化を考慮してわかりやすく表現したものがある。

表ー5　最近３カ年のノリ輸出数利用及び金額と順位

順位	期間・単位	平成16年(1～12月)		平成15年(1～12月)		平成14年(1～12月)	
		数　量	金額(千円)	数　量	金額(千円)	数　量	金額(千円)
第一位	国　名	アメリカ合衆国		アメリカ合衆国		アメリカ合衆国	
	干ノリ(千枚)	8,404	145,616	8,644	149,893	15,175	236,303
	焼・味　(kg)	69,603	258,306	50,895	225,363	65,901	259,824
	小　計		403,922		375,256		496,127
第二位	国　名	オランダ		台　湾		台　湾	
	干ノリ(千枚)	918	21,712	1,903	12,738	88	1,468
	焼・味　(kg)	9,040	59,496	48,836	72,991	46,816	75,648
	小　計		81,208		85,729		77,116
第三位	国　名	台　湾		香　港		香　港	
	干ノリ(千枚)	1,781	10,999	256	3,749	365	6,634
	焼・味　(kg)	34,031	64,436	38,693	68,883	50,701	61,644
	小　計		75,435		72,632		68,278
輸出総合計	干ノリ(千枚)	13,074	204,738	12,961	203,476	18,111	286,509
	焼・味(kg)	200,622	726,386	207,254	670,276	255,075	771,562
	合　計		931,124		873,752		1,058,071

財務省関税局貿易統計



図－７　過去10カ年の輸出の推移

Ⅳ　ノリ需給動向

1．計画生産

⑴　趣　　旨

①　需要に見合った適正生産量の確保

②　製品向上－消費者に歓迎されない粗悪品の排除

③　漁家経営の合理化

⑵　具体的対策(平成16年度漁期対策より)

①　共販期間の設定－地域の実情にあわせ140日を基準とする。

②　不良品対策－全国最低基準価格：3円(3円未満は不良品として消却)

③　製品向上対策－消費者嗜好に基づく「うまい海苔作り」を推進し、選別、厳正検査の徹底を図り消費拡大につなげる。

表－６　「計画生産」の推移

注）年度はノリ年度

年度	目標生産量（百万枚）	生産量（百万枚）	達成率（%）	生産金額（億円）	平均単価（枚/円）	１経営体当たり生産金額(万円)・指数	
49	7,000	6,940	99	836	12.04	197	100
50	6,500	7,150	110	806	11.27	215	109
51	6,800	7,146	105	1,012	14.16	301	153
52	7,100	7,050	99	1,298	18.41	409	208
53	7,300	9,000	123	1,521	16.90	503	255
54	8,000	8,800	110	1,634	18.68	553	281
55	7,500	8,300	111	1,180	14.22	417	212
56	7,500	7,900	105	1,004	12.71	379	192
57	7,500	7,500	100	1,320	17.60	540	274
58	7,500	10,800	144	1,319	12.21	598	304
59	8,000	9,000	113	1,159	12.88	544	276
60	8,000	9,400	118	1,073	11.41	526	267
61	8,000	8,900	111	1,011	11.36	535	272
62	8,000	9,600	120	1,305	13.59	754	384
63	8,000	10,800	135	1,137	10.53	698	354
元	9,000	10,500	116	1,159	11.30	759	385
2	9,000	9,100	101	929	10.21	654	332
3	8,500	9,800	115	1,096	11.18	817	415
4	8,860	9,990	113	1,093	10.94	899	456
5	8,800	10,980	125	1,252	11.40	1,113	565
6	9,800	10,370	106	950	9.16	893	453
7	9,800	10,380	106	975	9.39	941	478
8	9,500	9,350	98	1,084	11.59	1,095	556
9	9,500	10,470	110	1,136	10.85	1,237	628
10	9,500	10,410	110	979	9.40	1,114	565
11	9,500	9,790	103	958	9.78	1,158	588
12	9,500	8,380	88	985	11.75	1,271	645
13	10,000	10,740	107	1,086	10.11	1,476	749
14	9,500	9,879	104	915	9.26	1,342	681
15	9,500	8,580	90	881	10.27	1,345	697
16	9,500	9,570	101	939	9.81	－	－

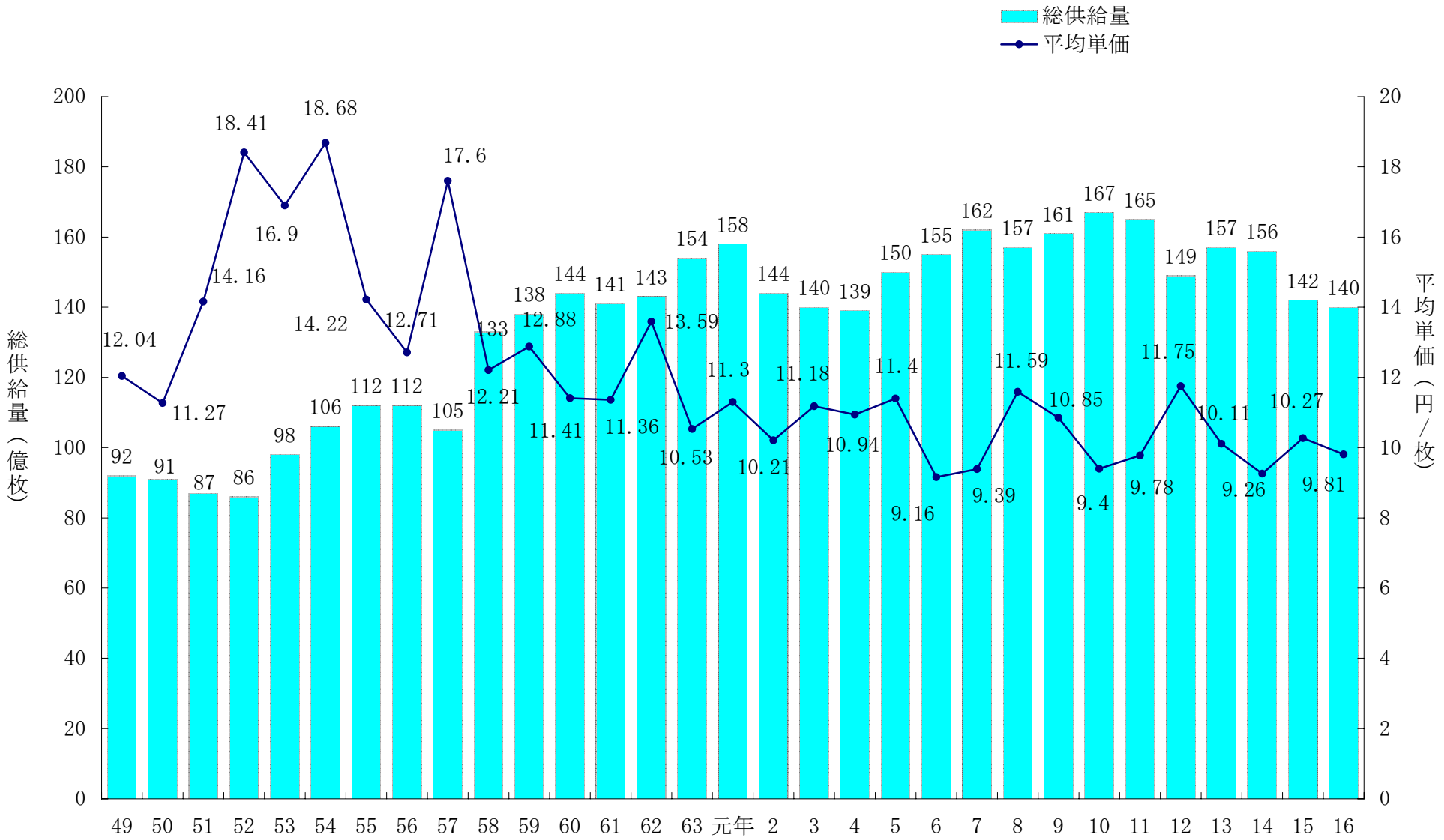
２．　需給動向

表－7　需給動向の推移

〔単位：百万枚〕

年度 （　）内はノリ年度	49 (48)	59 (58)	8 (7)	9 (8)	10 (9)	11 (10)
(1)生産量	9,640	10,800	10,380	9,350	10,470	10,410
(2)前年繰越量	1,000	2,500	5,842	6,334	5,616	6,238
(3)韓国ノリ	－	－	12	32	52	69
(4)総供給量 (1)＋(2)＋(3)	10,640	13,300	16,234	15,716	16,138	16,717
(5)推定消費量	8,400	8,500	9,900	10,100	9,900	10,100
(6)翌年繰越 (4)－(5)	2,200	4,800	6,334	5,616	6,238	6,617

年度 （　）内はノリ年度	12 (11)	13 (12)	14 (13)	15 (14)	16 (15)	17 (16)
(1)生産量	9,790	8,380	10,740	9,879	8,580	9,570
(2)前年繰越量	6,617	6,327	4,757	5,477	5,366	3,986
(3)外国産ノリ	120	150	180	210	240	400
(4)総供給量 (1)＋(2)＋(3)	16,527	14,857	15,677	15,566	14,186	13,956
(5)推定消費量	10,200	10,100	10,200	10,200	10,200	－
(6)翌年繰越 (4)－(5)	6,327	4,757	5,477	5,366	3,986	－


総供給量
平均単価
総供給量（億枚）
平均単価（円／枚）
200
180
160
140
120
100
80
60
40
20
0
20
18
16
14
12
10
8
6
4
2
0
92
91
87
86
98
106
112
112
105
133
138
144
141
143
154
158
144
140
139
150
155
162
157
161
167
165
149
157
156
142
140
12.04
11.27
14.16
18.41
16.9
18.68
14.22
12.71
17.6
12.21
12.88
11.41
11.36
13.59
10.53
11.3
10.21
11.18
10.94
11.4
9.16
9.39
11.59
10.85
9.4
9.78
11.75
10.11
9.26
10.27
9.81
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
元年
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16

Ⅴ　漁場環境保全

－水産庁・水質汚濁等による突発的漁業被害報告書(平成15年度)から

１．海面における漁業被害（平成15年度）

海面における水質汚濁等による突発的漁業被害は、発生件数63件(うち被害金額が不明の件数28件)、被害金額22.77億円で,前年度と比較した場合,発生件数は34%,被害金額は2.5倍とともに増加している。

表－８　平成15年度の海面漁業被害の発生状況

		油		赤潮		油・赤潮以外		計	
15年度	発生件数	件 15(2)	% 23.8	件 39(22)	% 61.9	件 9(4)	% 14.3	件 63(28)	% 100.0
	被害額	千円 77,964	% 3.4	千円 2,128,906	% 93.5	千円 70,582	% 3.1	千円 2,277,452	% 100.0
14年度	発生件数	件 12(6)	% 23.5	件 33(19)	% 64.7	件 6(6)	% 11.8	件 51(31)	% 100.0
	被害額	千円 70,363	% 7.6	千円 857,932	% 92.4	千円 0	% 0	千円 928,295	% 100.0
15年度／14年度	発生件数	125.0%		134.5%		150.0%		134.0%	
	被害額	110.8%		248.1%		―		245.3%	

(注)１．発生件数欄の( )書きは、被害額不明件数で内数である。

⑴ 油　濁　被　害

表－９　原因者不明漁業被害の救済実績〔(財)漁場油濁被害救済基金〕

－水質汚濁による突発的漁業被害発生報告書(水産庁)より－

(4～3月統計、単位：件、百万円)

	合　　計		救　済　金		防　除　費		併　発
	件　数	金　額	件　数	金　額	件　数	金　額	件　数
昭和50年度	25	189	7	143	23	46	5
51	66	263	14	173	64	91	12
52	69	159	14	74	65	85	10
53	95	220	9	86	94	135	8
54	80	391	12	223	79	169	11
55	63	276	14	191	56	85	7
56	54	378	17	285	44	93	7
57	40	284	8	165	35	118	3
58	45	236	6	107	41	129	2
59	46	169	10	65	46	104	10
60	49	438	10	306	49	132	10
61	36	94	2	27	35	66	1
62	35	93	2	40	35	53	2
63	32	103	6	38	32	65	6
平成元年	41	172	7	79	41	92	7
2	28	128	4	69	28	59	4
3	28	139	3	62	28	77	3
4	22	81	1	13	22	68	1
5	15	23	2	8	15	15	2
6	19	50	2	21	19	29	2
7	16	50	3	22	16	28	3
8	24	69	1	15	24	54	1
9	14	52	5	25	14	27	5
10	13	56	1	19	13	37	1
11	6	12	0	－	6	12	0
12	8	7	0	－	8	7	0
13	9	8	1	1	9	7	1
14	6	12	0	0	6	12	0
15	16	38	16	27	1	11	1

注：金額は万円以下切り捨てて集計した。

⑵　赤潮によるもの

平成15年度の赤潮による漁業被害は、発生件数39件(うち被害金額が不明の件数21件)被害金額約21.2億円であった。播磨灘及び有明海においてノリの色落ちの被害が発生したほか、シャットネラ赤潮による養殖魚類等のへい死等の被害が発生したことから、平成14年度に比べ、被害件数及び被害金額が増加した。

表－10　　平成10年度～平成14年度の赤潮による漁業被害の発生状況

(被害金額：千円)

年度	項　目	伊勢湾・熊野灘地区		瀬戸内海地区		九　州　地　区		その他地区		計	
11	発生件数	1	5.6	5(5)	27.8	10(5)	55.6	2(2)	11.1	18(12)	100
	被害金額	2,800	0.3	－	－	819,749	99.7	－	－	822,549	100
12	発生件数	10	23.8	8(4)	19.0	22(7)	52.4	2(2)	4.8	42(13)	100
	被害金額	44,082	1.0	39,940	0.9	4,356,224	98.1	－	－	4,440,246	100
13	発生件数	2(1)	5.4	3	8.1	22(11)	59.5	10(7)	27.0	37(19)	100
	被害金額	40	0.0	14,008	2.8	412,181	83.2	69,200	14.0	495,429	100
14	発生件数	2	6.1	8(3)	24.2	20(14)	60.6	3(2)	9.1	33(19)	100
	被害金額	858	0.1	175,829	20.5	666,245	77.7	15,000	1.7	857,932	100
15	発生件数	3(3)	7.7	11(3)	28.2	21(12)	53.8	4(4)	10.3	39(22)	100
	被害金額	0	0.0	1,270,567	59.7	858,339	40.3	－	0.0	2,128,906	100

資料：水産庁「水質汚濁による突発的漁業被害発生報告書ー平成15年度」より

(注意)発生件数欄の（　）書きは、被害金額が不明の件数で内数である。

水産用水基準と生活環境の保全に関する環境基準(環境省)との対比

項目	河川				湖沼				海域			
	水産用水基準		環境基準		水産用水基準		環境基準		水産用水基準		環境基準	
ｐＨ	6.7-7.5		類型	A 6.5-8.5	6.7-7.5		類型	AA 6.5-8.5	一般	7.8-8.4	類型	A 7.8-8.3
				B 6.5-8.5				A 6.5-8.5				B 7.8-8.3
				C 6.5-8.5				B 6.5-8.5				
ＢＯＤ	自然繁殖(一般)	3	類型	A 2	ー		ー		ー		ー	
(mg/ℓ以下)	自然繁殖(ｻｹ・ﾏｽ・ｱﾕ)	2		B 3								
	成育(一般)	5		C 5								
	成育(ｻｹ・ﾏｽ・ｱﾕ)	3										
ＣＯＤ					自然繁殖(一般)	3	類型	AA 1	一般	1	類型	A 2
(mg/ℓ以下)					自然繁殖(ｻｹ・ﾏｽ・ｱﾕ)	2		A 3	ノリ養殖場	2		B 3
					成育(一般)	5		B 5				
					成育(ｻｹ・ﾏｽ・ｱﾕ)	3						
ＳＳ	一般	25	類型	A 25	ｻｹ・ﾏｽ・ｱﾕ	1.4	類型	AA 1	人為的	2		
(mg/ℓ以下)	人為的	5		B 25	温水性魚類	3.0		A 5				
				C 50				B 15				
ＤＯ	一般	6	類型	A 7.5	一般	6	類型	AA 7.5	一般	6	類型	A 7.5
(mg/ℓ以上)	ｻｹ・ﾏｽ・ｱﾕ	7		B 5	ｻｹ・ﾏｽ・ｱﾕ	7		A 7.5	内湾夏季底層	4.3		B 5.0
				C 5				B 5.0				
大腸菌群数	一般	1,000	類型	A 1,000	一般	1,000	類型	AA 50	一般	1,000	類型	A 1,000
ＭＰＮ／100ｍｌ以下				B 5,000				A 1,000	生食用ｶｷ	70	生食用ｶｷ	70
全窒素					ｻｹ・ｱﾕ	0.2	類型	Ⅱ 0.2	水産1種	0.3	類型	Ⅱ 0.3
(mg/ℓ以下)					ﾜｶｻｷﾞ	0.6		Ⅳ 0.6	2種	0.6		Ⅲ 0.6
					ｺｲ・ﾌﾅ	1.0		Ⅴ 1.0	3種	1.0		Ⅳ 1.0
									ノリ養殖	0.07-0.1		
全燐					ｻｹ・ｱﾕ	0.01	類型	Ⅱ 0.01	水産1種	0.03	類型	Ⅱ 0.03
(mg/ℓ以下)					ﾜｶｻｷﾞ	0.05		Ⅳ 0.05	2種	0.05		Ⅲ 0.05
					ｺｲ・ﾌﾅ	0.1		Ⅴ 0.1	3種	0.09		Ⅳ 0.09
									ﾉﾘ養殖	0.007-0.014		
n-ﾍｷｻﾝ抽出物質	検出されないこと				検出されないこと				検出されないこと		類型A	検出されないこと
(油分等)											B	検出されないこと

注1 ーは基準値が 設定されていない。

注2 水産用水基準の海域と環境基準のノリ養殖利水点ＣＯＤはアルカリ法、環境基準の海域・類型ＢのＣＯＤは酸性法による値である。

水産用水基準と人の健康の保護に関する環境基準(環境省)との対比

(単位：mg/ℓ以下)

項目	水産用水基準		環境基準
	淡水域	海域	
カドミウム	検出されないこと	検出されないこと	0.01
全シアン	検出されないこと	検出されないこと	検出されないこと
鉛	0.001	0.003	0.01
六価クロム	0.003	0.01	0.05
砒素	0.01	0.01	0.01
総水銀	検出されないこと	検出されないこと	0.0005
アルキル水銀	検出されないこと	検出されないこと	検出されないこと
ＰＣＢ	検出されないこと	検出されないこと	検出されないこと
ジクロロメタン	0.02	－	0.02
四塩化炭素	0.002	0.002	0.002
1,2-ジクロロエタン	0.004	0.004	0.004
1,1-ジクロロエチレン	0.02	0.02	0.02
シス-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	－	－	0.04
1,1,1-トリクロロエタン	0.5	0.5	1
1,1,2-トリクロロエタン	0.006	－	0.006
トリクロロエチレン	0.03	0.03	0.03
テトラクロロエチレン	0.01	0.01	0.01
1,3-ジクロロプロペン	0.002	0.002	0.002
チウラム	0.006	－	0.006
シマジン	0.003	－	0.003
チオベンカルブ	0.02	0.02	0.02
ベンゼン	0.01	0.01	0.01
セレン	0.002	0.01	0.01
硝酸態窒素	10	10	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素
亜硝酸態窒素	0.03	0.06	10
ふっ素	0.8	1.4	0.8
ほう素	検出されないこと	4.5	1
ダイオキシン	1pgTEQ/L	1pgTEQ/L	1pgTEQ/L

－ ：基準値が設定されていない。

水産用水基準と要監視項目の指針値(環境省)の対比

(単位：mg/ℓ以下)

項目	水産用水基準		環境基準
	淡水域	海域	
クロロホルム	0.01	0.06	0.06
ﾄﾗﾝｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	－	－	0.04
1,2-ジクロロプロパン	0.06	0.06	0.06
p-ジクロロベンゼン	0.1	0.1	0.3
イソキサチオン	0.00002	0.00003	0.008
ダイアジノン	0.00004	0.0001	0.005
フェニトロチオン	0.00001	0.00001	0.003
イソプロチオラン	0.01	0.04	0.04
オキシン銅	0.008	－	0.04
クロロタロニル	0.002	0.002	0.05
プロピザミド	0.008	－	0.008
EPN	検出されないこと	0.0002	0.006
ジクロルボス	0.00003	0.0004	0.008
フェノブカルブ	0.0003	0.003	0.03
イプロベンホス	0.0001	0.008	0.008
クロルニトロフェン	0.06	0.08	－
トルエン	0.6	0.4	0.6
キシレン	0.4	－	0.4
フタル酸ジエチルヘキシル	0.001	0.06	0.06
ニッケル	検出されないこと	検出されないこと	－
モリブデン	0.07	0.07	0.07
アンチモン	検出されないこと	0.4	－

－ 基準値又は指針値が設定されていない。

(注)「水産用水基準」(2000年版、日本水産資源保護協会編)より抜粋

Ⅵ　資　料

（別表）◎Ｈ５～Ｈ１７年外国産海苔輸入数量の経緯（単位：枚数・万枚、平均・１枚円）

年/項目	輸入枚数	商社割当Ａ	同Ｂ	同Ｃ	需要者割当	先着順割当	平均値
Ｈ１７年(%)	**40,000(100)**	**5,200(13.00)**	**500(1.25)**	**4,000(10.00)**	**24,400(61.00)**	**5,900(14.75)**	
Ｈ１６年(%)	24,000(100)	4,220(17.58)	150(0.63)	―	14,800(61.67)	4,830(20.13)	9.66
Ｈ１５年(%)	21,000(100)	3,620(17.24)	―	―	13,000(61.90)	4,380(20.86)	9.16
Ｈ１４年(%)	18,000(100)	3,020(16.78)	―	―	11,200(62.22)	3,780(21.00)	11.39
Ｈ１３年(%)	15,000(100)	2,420(16.13)	―	―	9,400(62.67)	3,180(21.20)	12.83
Ｈ１２年(%)	12,000(100)	1,900(15.83)	―	―	7,600(63.33)	2,500(20.83)	9.80
Ｈ１１年(%)	6,900(100)	1,800(26.09)	―	―	4,600(66.67)	500(7.25)	8.99
Ｈ１０年(%)	5,224(100)	―	―	―	5,524(100)	―	8.05
Ｈ　９年(%)	3,216(100)	―	―	―	3,216(100)	―	8.52
Ｈ　８年(%)	1,043(100)	―	―	―	1,043(100)	―	8.59
Ｈ　７年(%)	936(100)	―	―	―	936(100)	―	5.98
Ｈ　６年	―	―	―	―	―	―	―
Ｈ　５年(%)	240(100)	―	―	―	240(100)	―	8.50

注：Ｈ５～H16までは韓国産のみ。H17はノリIQ枠のグローバル化にともない韓国産に加え中国産が含まれる。